コロナ禍におけるDOHaD研究の実態と今後

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 濱田, 裕貴, 春日, 義史, 久保, 佳範 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004022

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 84 頁

第 10 回日本 DOHaD 学会
＜一般口演 4＞

コロナ禍における DOHaD 研究の実態と今後

1.東北大学産婦人科、2.慶應義塾大学医学部産婦人科、3.女子栄養大学大学院栄養学研究科、4.日本 DOHaD 学会 若手の会 ASTRO

濱田 裕貴 1,4
春日義史 2,4、 久保佳範 3,4

【背景】新型コロナウイルス感染拡大は人々の生活様式に大きく影響しており、研究者においても研究活動の自粛などの影響を及ぼしている。一方で、新型コロナウイルス感染症、および感染拡大している環境そのものが次世代以降に与える影響については、日本 DOHaD 学会全体として取り組むべき喫緊の課題であると言える。DOHaD 研究が、新型コロナウイルス感染拡大によりどのような影響を受け、今後どのように立ち向かうべきなのかを探ることを目的とし、以下のごとくアンケート調査を行った。
【方法】第 31 回日本 DOHaD 学会寺子屋研究会（オンライン開催）において、視聴者を対象に Zoom の拡張機能を利用した選択式アンケート調査を行った。
【結果】有効回答数は、研究会の参加者 72 名のうちの 48 名（67%）であった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、研究活動に何らかの制限を受けていた研究者は、46 名（96%）であった。新型コロナウイルス感染症関連の研究を行っている研究者は、18 名（37%）であった。日本 DOHaD 学会が新型コロナウイルス感染症関連の研究に取り組むべき、あるいは、支援すべきと考えている研究者は 40 名（83%）であった。
【結論】新型コロナウイルス感染拡大が DOHaD 関連研究の現場にどのような影響があり、現在どのように立ち向かっており、そして、今後どのように立ち向かうべきなのかについて明らかにした。多くの DOHaD 研究者が研究自粛などの影響を受けながら、一部の研究者は新型コロナウイルス感染関連の研究を行う準備を進めていた。DOHaD 研究者の大半が、日本 DOHaD 学会による研究の立ち上げや支援を強く望んでおり、今後の活動が期待される。